

本講座では、世界の様々な地域に根づく人々の死生観について、とりわけその地域の宗教文化に着目しながら、学んでいきたいと思えます。人間はなぜ生まれ、なぜ死んでいくのか。死んだ後はどうになってしまうのか—科学の進歩をもって人間の力の及ばない局面として、今日まで存在しつづけてきたのが、生命の「生」と「死」をめぐる領域です。宗教文化はこうした根源的な問いに応えることで、人々が生きるうえで一定の安心感を与えてきたと言えるでしょう。

とは言え、「生」と「死」についての解釈は、宗教文化によって大きく異なります。死後に肉体を伴う復活を想定する文化もあれば、肉体とは別の魂による生まれ変わりを説く文化もあります。そして、生まれ変わりがそうであるように、「死」の解釈は「生」の解釈と不可分でもあります。

今回は、日本・中国・南アジア・中東・ヨーロッパと5つの地域を取り上げ、各地域で展開する死生観についてお話しいたします。



オンデマンド  
(録画)配信

# 世界の 人々の 生と死



## ■各回の配信日■

- 第1回 令和7年 6月13日(金)
  - 第2回 令和7年 6月27日(金)
  - 第3回 令和7年 7月11日(金)
  - 第4回 令和7年10月 3日(金)
  - 第5回 令和7年10月17日(金)
- ※配信日から1か月間ご視聴いただけます

コーディネーター：大道 晴香（國學院大學・准教授）

- 第1回 遠藤 潤 講師「神道の死生観—中世・近世の神道説や葬儀を中心に—」（日本）
- 第2回 澤井 真 講師「生者が死者と出会うとき」（中東）
- 第3回 加藤 久子 講師「ヨーロッパの死生観—キリスト教文化と民間信仰」（ヨーロッパ）
- 第4回 井田 克征 講師「ヒンドゥー教の死生観」（南アジア）
- 第5回 エリック・シッケタンツ 講師「中国の民間信仰における多様な他界観」（中国）

配信期間 令和7年6月13日～11月17日

申込締切 令和7年6月6日(金)

受講料 11,000円(税込) 視聴時間 1回 90分

申込 QRコードの申込フォームからお申し込みください



申込フォーム

共 催：一般財団法人 冠婚葬祭文化振興財団／互助会保証 株式会社  
問合せ先：國學院大學エクステンションセンター  
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28  
TEL：03-5466-0270  
Email：jigyuu@kokugakuin.ac.jp

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

# 講座概要

## 第1回 「神道の死生観－中世・近世の神道説や葬儀を中心に－」（日本）

講師：遠藤 潤（國學院大學神道文化学部教授）

「神道の死生観」といっても多様だが、この講義では中世・近世の神道説や葬儀（神葬祭）を主な対象として、その多様性の一端を示したい。典拠とされる『日本書紀』や『古事記』などでの記述についても簡潔に説明する。

## 第2回 「生者が死者と出会うとき」（中東）

講師：澤井 真（天理大学人文学部准教授）

クルアーンに登場する生と死の概念から、イスラームにおける死生観を理解する。そのうえで、トルコで行われている聖者崇敬や、現代日本のイスラーム墓地についてお話ししたい。

## 第3回 「ヨーロッパの死生観－キリスト教文化と民間信仰」（ヨーロッパ）

講師：加藤 久子（國學院大學神道文化学部准教授）

本講義ではヨーロッパのカトリック文化圏を中心に、キリスト教と神話、民間信仰が織り成す独自の（プロテスタント文化圏とはまた違った）死生観について紹介します。

## 第4回 「ヒンドゥー教の死生観」（南アジア）

講師：井田 克征（中央大学総合政策学部准教授）

人はどこからやって来て、どこへ去って行くのか。いのちをめぐる問いは、古代よりこの地域の宗教伝統における重要な主題であった。本講義ではヒンドゥー教における魂やいのちの位置付けに関する議論を幅広く紹介する。そしてさらに民間信仰や大衆文化における死者や幽霊を巡る実践なども紹介し、インドの人々の死生観に迫っていく。

## 第5回 「中国の民間信仰における多様な他界観」（中国）

講師：エリック・シッケタンツ（國學院大學神道文化学部准教授）

本講義は中国の民間信仰における他界観を検討し、生者と死者の関係性を紹介する。中国では、一つの支配的な他界観が存在しているのではなく、道教、仏教、民間信仰などによる複数の他界観が共存している。さらに、キリスト教、仏教やイスラームなどの伝統は他界を現世と異質の領域として想定しているのに、中国の民間信仰の他界観の大きな特徴は、この世との連続性と類似性である。

世界の  
人々の  
生と死

